

7 / 28 校長室より 328



コロナ禍の中ではありますが、
オリンピック競技が予定通り進められており、
連日、各競技において日本人選手も大活躍です。

その中で、
インタビューを受けた 大野将平選手（柔道）の
言葉が印象的でした。

「…好きで始めた柔道がリオ大会以降、嫌いになって、
何のために稽古をやっているのだろうと自問自答
する日々でした。この大会も、自分は何者なのかを
確かめるために、証明するために戦うことができました。」

リオ・オリンピックで金メダリストとなって以来、
“楽しい柔道”と決別した大野選手。
「そもそも柔道はきつくて、しんどい。」ものであり
「楽しんでいる場合ではない。」と
覚悟を決めて 死に物狂いで歩んできた道のり
であったことが よく伝わってきました。

自らの人生と真剣に向き合っていくためには、
この『**覚悟を決める**』ということが必要ですが
本当に難しいことでもあります。
オリンピックは、その**覚悟が本物であったか**を
確かめる 真剣勝負の場であると感じました。